

2026年6月17日  
三菱電機株式会社

**NEWS RELEASE**

**「環境ビジョン2050」の改定 および「環境計画2030」の策定**  
世界的に深刻化する環境課題の解決に向け、グループ全体の取り組みを強化

**環境ビジョン2050**

大気、大地、水を守り、心と技術で未来へつなぐ



三菱電機グループは、  
環境問題につながる  
様々な要因の解決にむけて、  
一人ひとりの想いをつないで、  
新しい価値の創出に挑戦し、  
持続可能な未来をつくります。

**課題領域**

三菱電機グループは、多岐にわたる事業を通じて、  
バリューチェーン全体で、気候変動対策、資源循環、自然共生をはじめとした  
様々な環境課題の解決に立ち向かいます。

カーボンニュートラル

気候変動対策

サーキュラーエコノミー

資源循環

ネイチャーポジティブ

自然共生

改定後の「環境ビジョン2050」

三菱電機株式会社は、世界的に深刻化する環境課題を踏まえ、2019年に策定した「環境ビジョン2050」を改定しました。また、その実現に向けた中期計画として「環境計画2030（2026～2030年度）」を策定し、新たな目標設定を行いました。

今回定めた新たな目標に向けて、環境貢献の取り組みを着実に実行し、マテリアリティの一つでもある「持続可能な地球環境の実現」に貢献します。

**「環境ビジョン2050」改定のポイント**

当社グループでは、環境貢献を重要な経営課題と位置づけ、環境課題の解決への優先した取り組み姿勢を定める目的で、「環境ビジョン2050」を2019年に策定しました。近年、AIの普及に伴うデータ通信量の増加による電力需要の拡大や、地政学リスクに起因する資源循環の重要性の高まり、事業活動の基盤となる自然資本の損失など、企業を取り巻く環境課題は世界的に複雑さを増しています。これらを背景に、再生可能エネルギーの利用拡大や資源の効率的な利用、生物多様性保全活動への積極的な参加など、企業に求められる環境活動の重要性が一層高まっています。

このように複雑さを増す環境課題や、当社グループにおけるサステナビリティ経営の進展を踏まえ、「環境ビジョン2050」の課題領域を「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ<sup>※1</sup>」の3つに整理し、環境課題における注力すべき領域をより明確化しました。この「環境ビジョン2050」の下、当社グループは多岐にわたる事業を通じて新たな価値を創出し、マテリアリティとして設定する「持続可能な地球環境の実現」に向けた取り組みを加速させていきます。

**「環境計画2030」の概要**

当社グループでは、「環境ビジョン2050」の実現に向けた目標と施策からなる中期計画として「環境計画」を数年ごとに策定しています。「環境計画2025（2024年度～2025年度）」に次ぐ今回の「環境計画2030」では、「環境ビジョン2050」で設定した3つの課題領域のうち、「カーボンニュートラル」の実現に向けて、2030年度までに工場・オフィスからの温室効果ガス排出量実質ゼロ<sup>※2</sup>を達成することを目標として掲げました。また、「サーキュラーエコノミー」に貢献する資源循環量の向上や、「ネイチャーポジティブ」に貢献する事業所の生物多様性保全について、目標設定などを行いました。

※1 自然資本の損失を食い止め、回復させること

※2 カーボン・オフセットを含む

領域	評価指標	目標
カーボンニュートラル	温室効果ガス排出量 スコープ 1 <sup>※3</sup> 、スコープ 2 <sup>※4</sup>	工場・オフィスからの温室効果ガス排出量実質ゼロの達成
	温室効果ガス排出量 スコープ 3 <sup>※5</sup>	2018 年度比 30%削減
サーキュラーエコノミー	資源循環量 <sup>※6</sup>	2024 年度比 10%向上
	プラスチック廃棄物の有効利用率 <sup>※7</sup>	100% <sup>※8</sup>
ネイチャーポジティブ	高リスク拠点(流域)の取水量	2024 年度比 6%削減
	事業所の生物多様性保全(増進)活動	三菱電機(国内)が管理対象とするすべての緑地の自然共生サイト <sup>※9</sup> 認定(OECM <sup>※10</sup> 登録)を目指す
	地域社会と連携した事業所周辺の自然環境の保護と環境教育	国内:里山保全プロジェクト・みつびしでんき野外教室 <sup>※11</sup> の全事業所での継続的な開催 海外:植林活動等の実施実績

### 三菱電機グループについて

三菱電機グループは、「Our Philosophy」のもと、サステナビリティを経営の根幹に据え、社会・顧客・株主・従業員をはじめとしたステークホルダーからの信頼を重んじてまいります。また、「収益性」「資本効率」「成長性」を追求するとともに、顧客と繋がり続けて社会課題を解決する新たな価値を創出し、企業価値の持続的向上を図ります。1921年の創業以来、100年を超える歴史を有し、社会システム、エネルギーシステム、防衛・宇宙システム、FA システム、自動車機器、ビルシステム、空調・家電、デジタルイノベーション、半導体・デバイスといった事業を展開しています。世界に 200 以上のグループ会社と約 15 万人の従業員を擁し、2025 年度の連結売上高は 5 兆 8,947 億円でした。詳細は、オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

### お問い合わせ先

<報道関係からのお問い合わせ先>

三菱電機株式会社 広報部

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 3 号

TEL 03-3218-2332

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/news/contact.html>

<お客様からのお問い合わせ先>

三菱電機株式会社 サステナビリティ・イノベーション本部 サステナビリティ業務部

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 3 号

E-mail : [eqd.eco@pj.MitsubishiElectric.co.jp](mailto:eqd.eco@pj.MitsubishiElectric.co.jp)

※3 自社における燃料使用に伴う直接排出

※4 外部から購入した電力や熱の使用に伴う間接排出

※5 スコープ 1、2 を除くバリューチェーン全体からの間接排出

※6 三菱電機グループ製品におけるリユース製品重量+再生プラスチック重量

※7 工場から排出された製造に関する廃棄物が対象。排出された廃棄物のうち、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、熱回収によって再利用された割合

※8 地域の規制や条件、および地域のリサイクル能力に従う場合にのみ適用

※9 環境省「自然共生サイト」 <https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/kyousei/>

※10 Other Effective area-based Conservation Measures (保護地域以外で生物多様性保全に資する区域)

※11 里山保全プロジェクト

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/sustainability/philanthropy/ecology/satoyama/index.html>

みつびしでんき野外教室

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/sustainability/philanthropy/ecology/class/index.html>